

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

5月中旬、東北を旅して面白いと思った場面に幾つか出会った。宿泊地・飯坂温泉。一昔前までは、旅館街には芸者衆が大勢いて、にぎわった時期もあっ

たが、現在は皆無で寂しいとの声が多かった。その状況の中、旅館を切り盛りする若旦那三人が2010年に三味線ユニットを結成。宴会の前座を盛り上げてくれる。

宿泊した

吉川屋の島正樹さん、ほりえや旅館の和田成さん、祭り屋・湯左衛門の柳沼公貴さんの若旦那3人衆と、唄い手としてスカウトされた民謡全国大会で賞を取った歌唱力のある、現役女子大学生の佐藤木綿子さん。飯坂小唄や福島小唄など、昔から歌い継がれていた民

旅のスタイルが大きく変わる現場を体験する事で、これからの観光地の在り方を考えてみませんか

酒「金水晶」の名酒の差し入れ。地元の大歓迎が大きいに盛り上がる。宿に置かれた若旦那の最新号は、タレント雑誌・ファッション誌そのものだ。すでに、国内の多くの温泉系若旦那たちに強烈な

刺激を与え、徐々に広がりを見せている。「会いに行ける」のキーワードは、音楽関係でも実績を上げてい

る。地域で活躍する人材を活用した手法は、訪れる人にとって顧客

だった。しかし、刺身が苦手な、私の料理を他のメニューにしてほしいと、初めて要望。300人の団体で無理」との返事と聞いていたが、できるだけ対応しますとの返事。宿

旅の楽しみの一つが、地域が誇る食材との出会いだ。しかし、好き嫌いや身体アレルギーで食べる事ができないことを体験した人も多いはずだ。これまでは特に要望はしな

の夕食は、煮魚に。昼食はエビの天ぷらに。対応してくれる。実情を知らない参加者は、天ぷら料理の置かれた席の椅子から、なかなか移動せず添乗員が「苦労。ますます高齢化する団体旅行に、満足する食事対応は不可欠



福島ならではの民謡での歓迎。「おもてなし」の心意気が旅を想いで深くする

新たな観光ステーションを創造する必要性が望まれる大北地域だが、他の先験的な取り

組みを展開している現場に出会うたびに、地域の観光に対する取り組みが心配になるのは私だけなのだろうか。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)